

# ETLツールで データ統合/活用を実現するための 3要素



01. DX・データ活用ブームがもたらしたもの	03
02. 事業を成長させるデータ統合/活用とは？	08
03. データ統合/活用を実現するために必要な3つの要素	13
04. データ統合/活用を実現するクラウド型サービスReckonerとは	19
05. ユースケース	30
06. 導入事例	34
07. お問い合わせ・資料請求	36

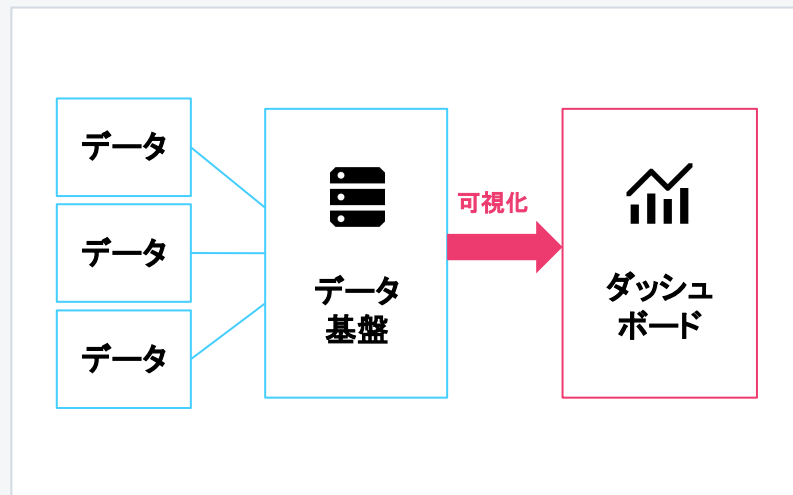
# 01

## DX・データ活用ブームがもたらしたもの

ここ数年「DX(デジタルトランスフォーメーション)」という言葉がブームとなり、多くの企業が自社内のデータ活用・データ分析に踏み出しました。その中でも多かったのは、社内のデータを集積するデータ活用・分析基盤としてのデータプラットフォームやデータレイクの構築、データの可視化を行うBIツールといったツールの導入を行い、データの統合 → 可視化ではないでしょうか？

そして、そのために全社のデータを統合・集積するために部署を横断したプロジェクトチームが立ち上げられる...

▶ では、そのDXは**事業の成長**に結びついたのでしょうか？





## DX・データ活用として期待した状態

- データの統合基盤の整備
- 社内の横断データを一目で把握できるダッシュボードの作成

こうした状態にすることでビジネス・事業へのコミット力を上げる

- ▶ 社内に分散したあらゆるデータをデータ基盤へ..データ基盤の沼化
- ▶ ダッシュボードの構築だけで満足してしまい、誰も見られないダッシュボードに.

**目的と手段が入れ替わってしまっている！**

データの統合・可視化ではなく



データを業務に活かす・業務にどういった影響を与えるのか？  
つまり、事業サービスの成長・グロースを前提にする

**より本質的な「データ統合/活用」が求められる！**

# 02

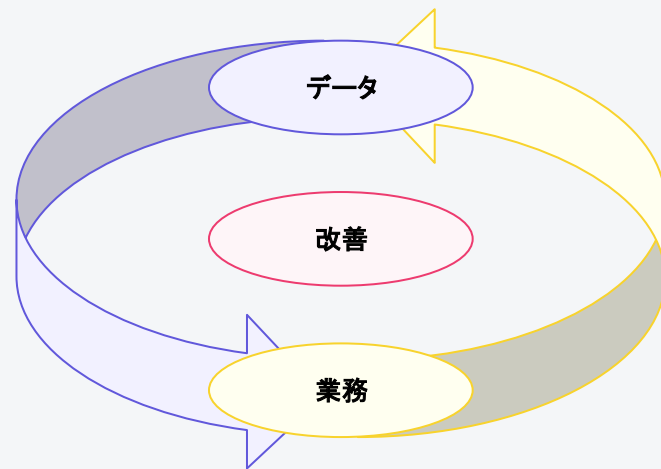
## 事業を成長させるデータ統合/活用とは？



スリーシェイクの考える(Reckonerの考える)

## データ統合/活用とは

データの民主化を行い、データ基盤を管理・構築するエンジニアと業務を行う非エンジニアである営業・マーケティング・コーポレート部門などの関係者が同じようにデータの流れることができ、同じ共通認識でプロセスの改善を実施。



## データを活用する・データを業務に活かす難しさ

### ▶ 構築・実装して終わりではない！

- 実際に業務で利用されるか？
- 予測精度が一定の精度を担保できるか？
- 利益(業務への貢献・効率化)を創出できるのか？

- ▶ 技術、ビジネスの状況、体制、業務内容は日々変わっていく。  
目的も、データも変化する。

**明確な正解はない・不確実性が高い**

## データを活用する・データを業務に活かす難しさ

### ▶ 構

- 
- 
- 

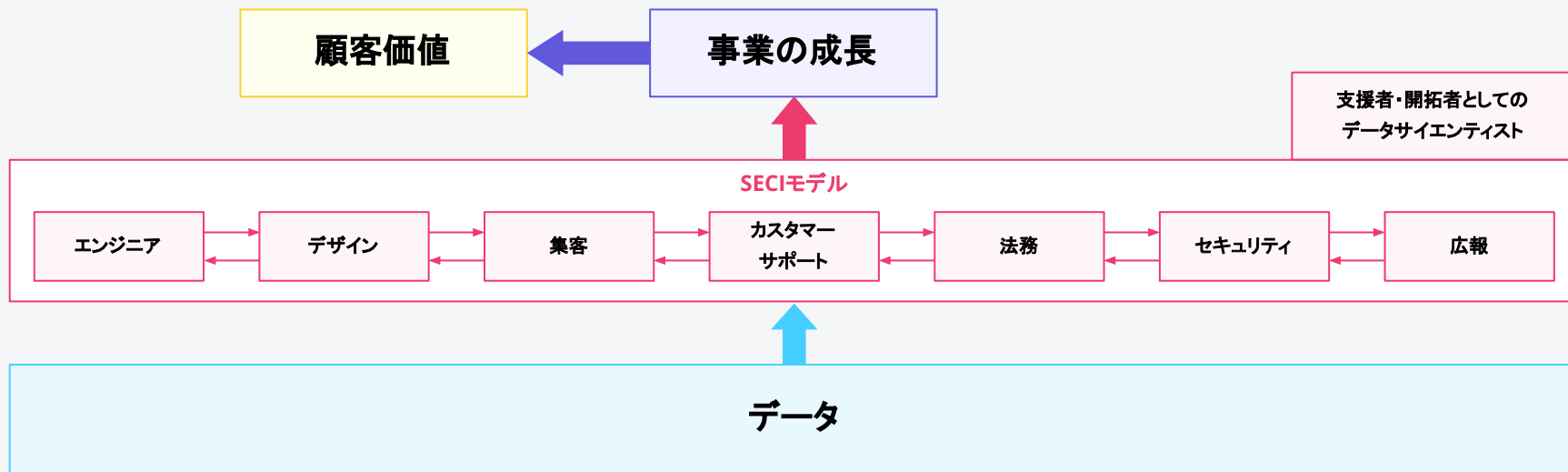
### ▶ 技 目

データを活用する・データを業務に活かすためには改善が不可欠。  
当初の設計、仮説で実装・運用を行っても  
成果に結びつかない可能性がある。また目的も変わっていく。

▶ 小さく・低コストで改善を繰り返すことで精度が上がる



このデータ統合/活用の一連のプロセスと  
業務の小さな改善を積み重ねることが事業の成長に繋がる

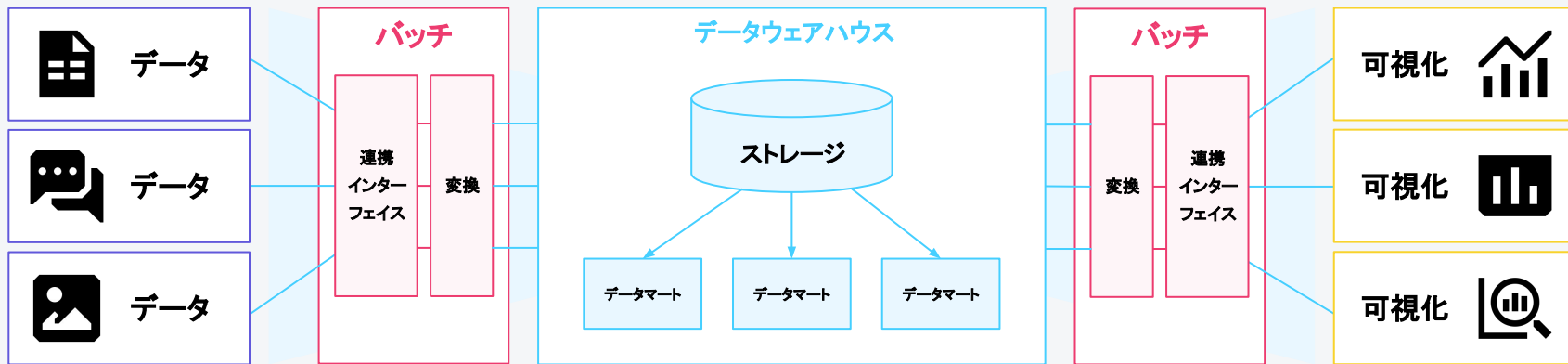


# 03

## データ統合/活用を実現するために必要な3つの要素



通常、データ連携を実施するためには多くのコストが必要。連携間のバッチ処理の実装コスト、実装した処理のパフォーマンス・情報漏洩を防ぐセキュリティ性の担保。さらに各実装が実装したエンジニアに属人化しがち。

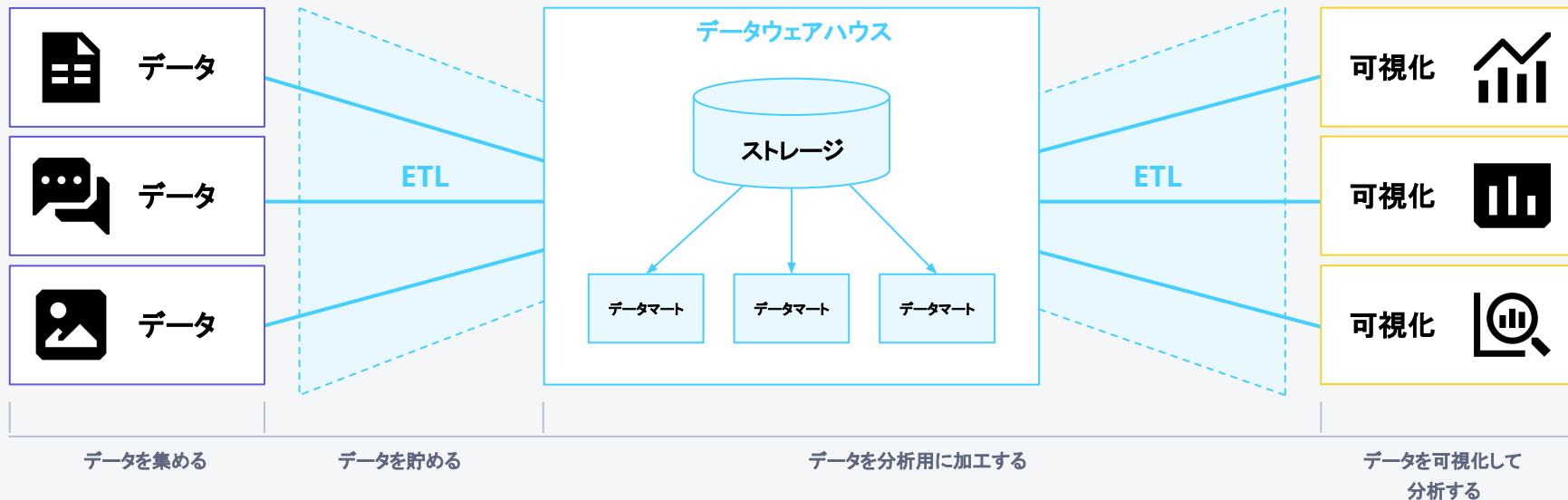


データの流れや、処理の中身が実装したエンジニアに属人化

- ▶非エンジニア部門ではデータの流れがわからない
- ▶DataとOps(業務)が離れてしまう

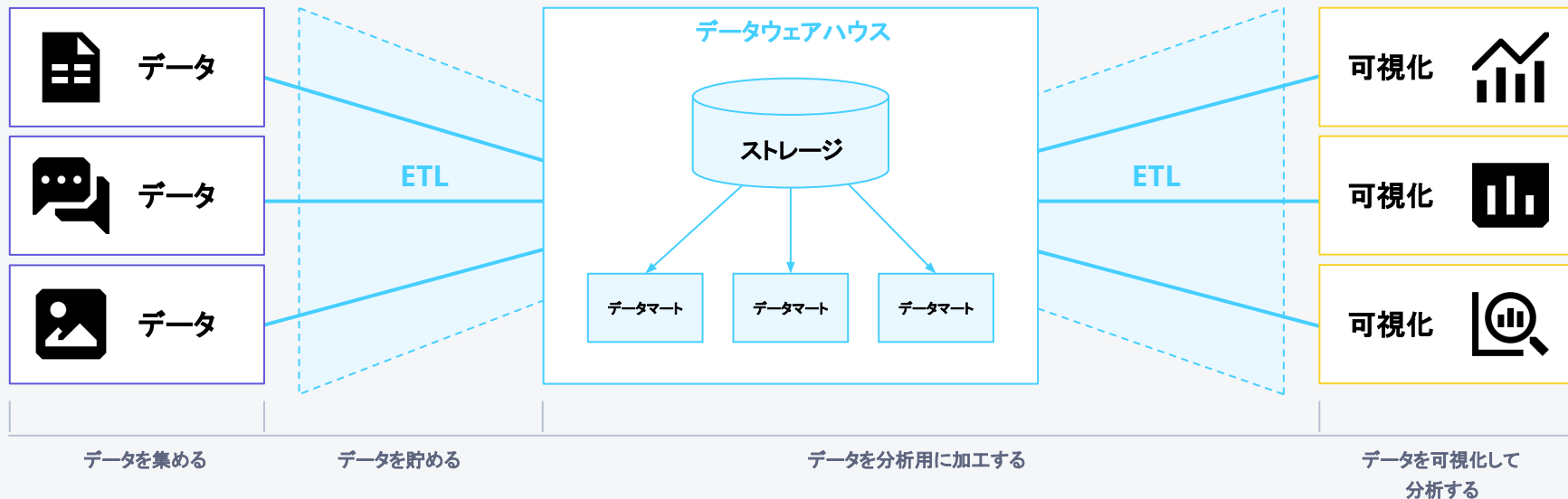
## ① 再現性(誰でも触れるか、PDCAしやすいか)

データをエンジニアだけが見えるモノではなく、非エンジニア(セールス・マーケティング・業務など)部門に対しても、データの連携・流れの見える化を行い、共通言語で話せるように**データの民主化**を行う必要有。そうすることで再現性が高く属人化させずにPDCAを回すことが可能。



## ② データ基盤構築コスト(設計/開発・構築/保守)が低い

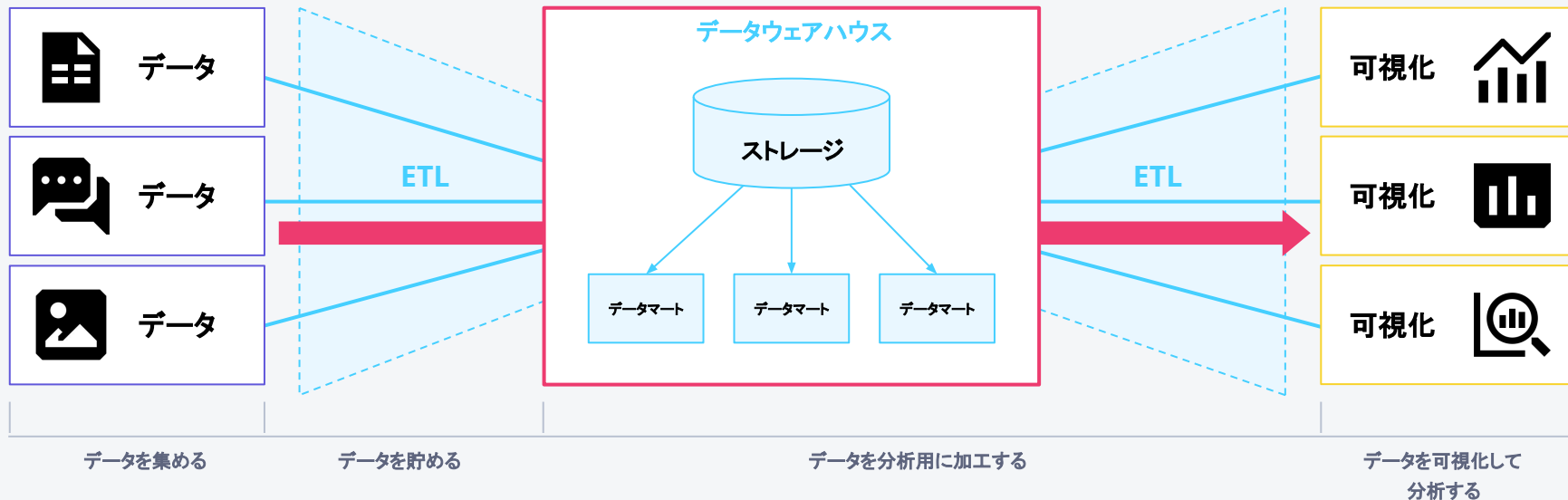
データソース⇒DWHへ、DWH⇒ツール・DBへデータ連携をする際に、連携ごとに個別のバッチを作成すると、設計/開発コストが高い。また、仕様やバージョン変更の際に再構築/保守のコストが発生。更に、設計/開発そして再構築/保守において低コストでデータ基盤を構築するインフラレイヤーの課題も浮き彫りに。





## ③ セキュリティとパフォーマンスの管理

データ連携の際に、処理に時間がかかってしまい、パフォーマンスが低ければ業務効率化の支障に。また、DWHのセキュリティをどれだけ強固にしてもデータ連携間で情報漏洩してはサービス/事業存続の危機に。データ連携間でのパフォーマンス・連携するデータ安全に連携するセキュリティが不可欠。



- 1 **再現性**(誰でも触れるか、PDCALしやすいか)
- 2 **データ基盤構築コスト**(設計/開発・構築/保守)が低い
- 3 **セキュリティとパフォーマンスの管理**

この3つを備えたデータ活用環境を整えることがデータ統合活用の実現には必要！

# 04

## データ統合/活用を実現する クラウドETLサービス Reckonerとは



クラウド型ETLサービスの決定版

## データ連携作業の工数を 大幅削減

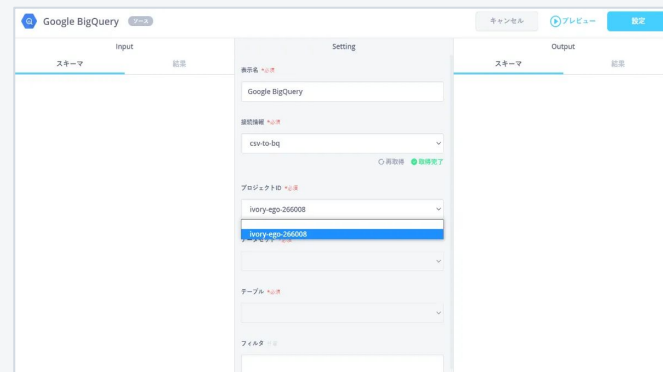
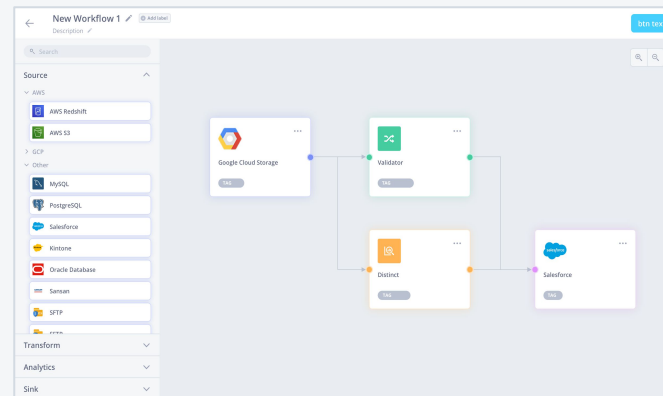
Reckonerはクラウド型ETL/データパイプラインサービス

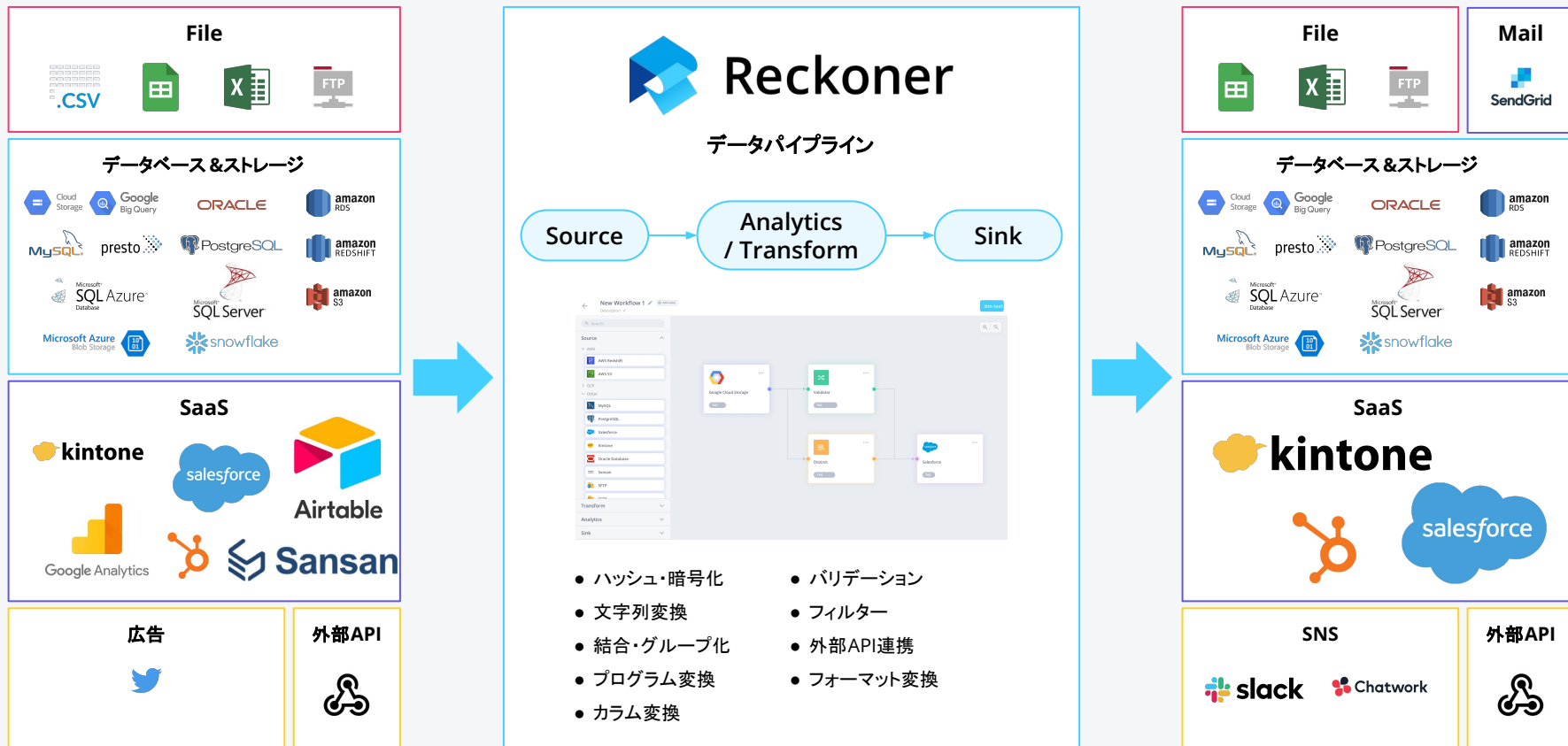
とことん使いやすさを追求

「仕様策定(プログラム設計)→実装→テスト→基盤構築→運用」と通常だと

非常に煩雑なデータ連携を、Reckonerは全てGUIで完結。

データ活用をこれまでにない直感的な方法で実現可能。





データソース

データマネジメント / 統合

データウェアハウス /  
データマート / 機械学習

可視化

## ① 再現性(誰でも触れるかPDCAしやすいか)

▶ 非エンジニアでも一目でデータの流れるわかるUI

## ② データ基盤構築コスト(設計/開発・構築/保守)が低い

▶ バッチ処理など一切のプログラム不要！

## ③ セキュリティとパフォーマンスの管理

▶ SREのプロフェッショナルであるスリーシェイクが提供

▶ 快適に運用できるパフォーマンス性と高いセキュリティを実現

**Reckonerはこの3つを備え、データ統合/活用に必要な環境を実現**

Point  
1

ノーコード

Point  
2

豊富な連携先

Point  
3

直感的に  
操作可能なUI

Point  
4

プレビュー機能

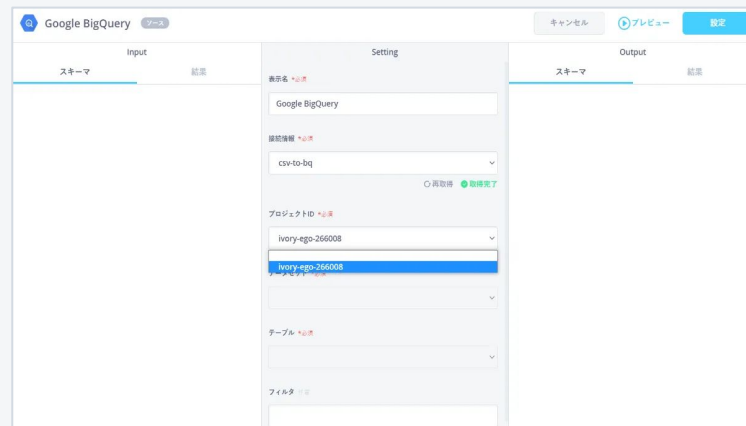
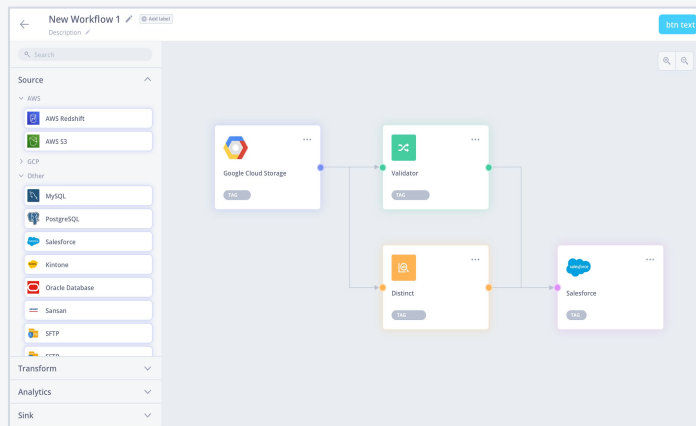
Point  
5

安全なインフラ  
セキュリティ



通常データ連携では、バッチの制作が必要。

しかしReckonerなら、**一切のプログラムは不要。**  
ワークフローの作成というシンプルなステップのみで実装可能。

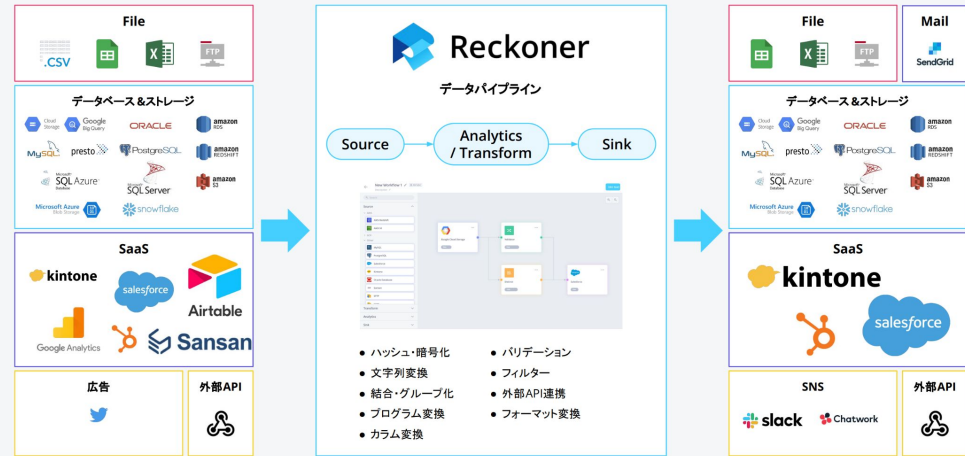




## 多数のデータベースや SaaSアプリケーションと接続可能

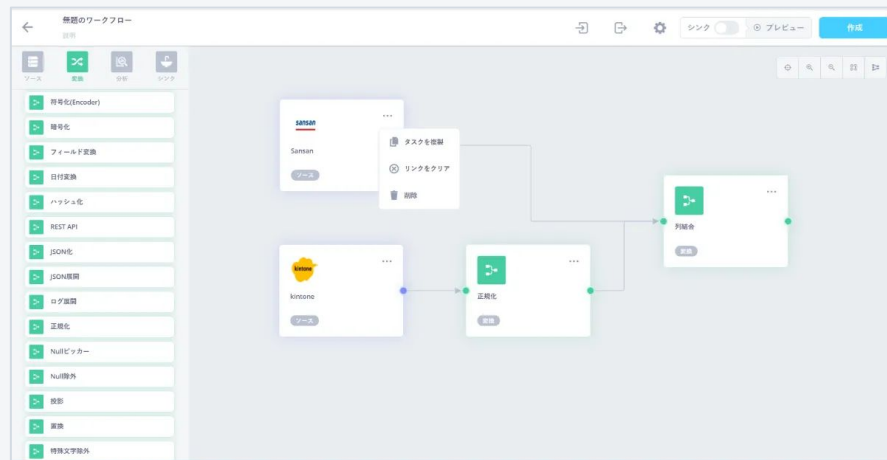
広告・SFA/MA・CRMなどなど、あらゆるデータソースと連携し、必要なデータの分析・活用が可能。

Reckonerは引き続き、さらに多くのデータソースとの連携を実施予定。



## 初期の設定～デプロイまで、 全ての操作が驚くほど直感的に設計

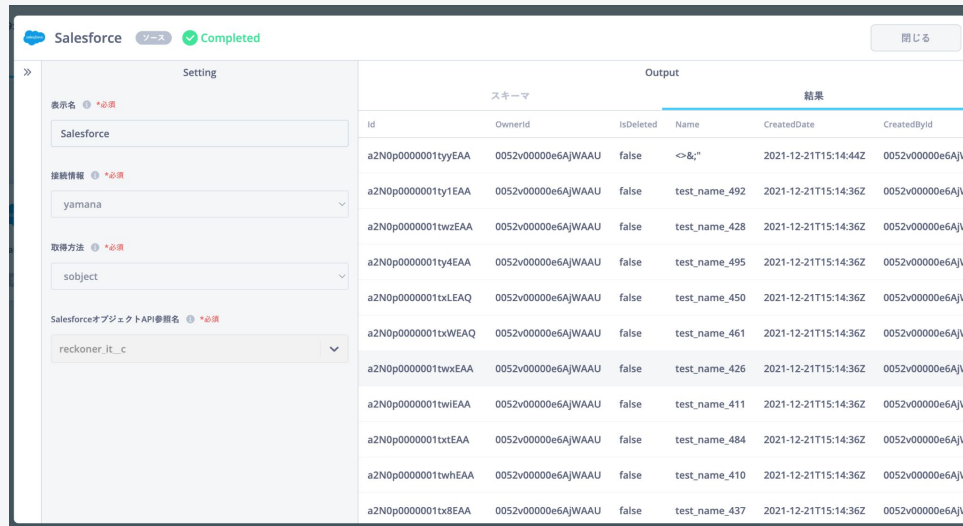
複数データソースからのデータ連携や、リアルデータでのプレビューなど、データ連携のかゆいところまで考慮され、非エンジニアでも扱いやすい設計



## リアルデータで変換や結合の プレビューが可能

通常の実データ解析では、想定通りのデータが得られたか確認するために、検証環境の構築など様々なステップを得てデータ処理のフローを1つ1つ確認が必要。

しかしReckonerなら、画面上にリアルデータで処理結果のプレビューを表示することができ、常に結果を確かめながら操作をすることが可能。



The screenshot shows the Reckoner interface for a 'Salesforce' job. The job status is 'Completed'. The 'Setting' panel on the left includes fields for '表示名' (Salesforce), '接続情報' (yamana), '取得方法' (subject), and 'SalesforceオブジェクトAPI参照名' (reckoner\_it\_c). The 'Output' panel on the right displays a table with columns for 'スキーマ' (Schema) and '結果' (Results).

スキーマ		結果			
id	OwnerId	IsDeleted	Name	CreatedDate	CreatedById
a2N0p0000001tyyEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	<>&,"	2021-12-21T15:14:44Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001ty1EAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_492	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001twzEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_428	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001ty4EAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_495	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001txLEAQ	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_450	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001txWEAQ	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_461	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001twxEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_426	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001twIEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_411	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001txtEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_484	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001twhEAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_410	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW
a2N0p0000001tx8EAA	0052v00000e6AJWAAU	false	test_name_437	2021-12-21T15:14:36Z	0052v00000e6AJW

SRE(サイト信頼性エンジニアリング)に強い当社スリーシェイクのインフラ環境であり、**別途のETL基盤準備が不要**。つまりデータエンジニアリングをする上で、**可用性やバックアップ・セキュリティ対応などが不要**。  
またPreview機能により、**ドライランも実施可能**。



ノーコードで直感的な UI を搭載しており、非エンジニアであっても ETL パイプラインを構築可能。  
また、フルクラウド型のため導入・インフラ管理にかかるコストが不要。

	海外クラウド型 ETL	海外オンプレミス型 ETL	 Reckoner
変換パイプライン	×	◎	◎
アプリケーションとの相互連携	△ 国内SaaSは未連携	× 国内外問わずSaaS連携は ユーザー側でプラグインを作る必要あり	◎
学習コスト	○ データ転送のみのため、シンプルな設定	×	◎ シンプルかつ高いユーザビリティのため、 学習コストは最小
インフラの管理	○	× ユーザー環境に基盤を別途構築運用する必要あり	◎ サーバレスのため不要

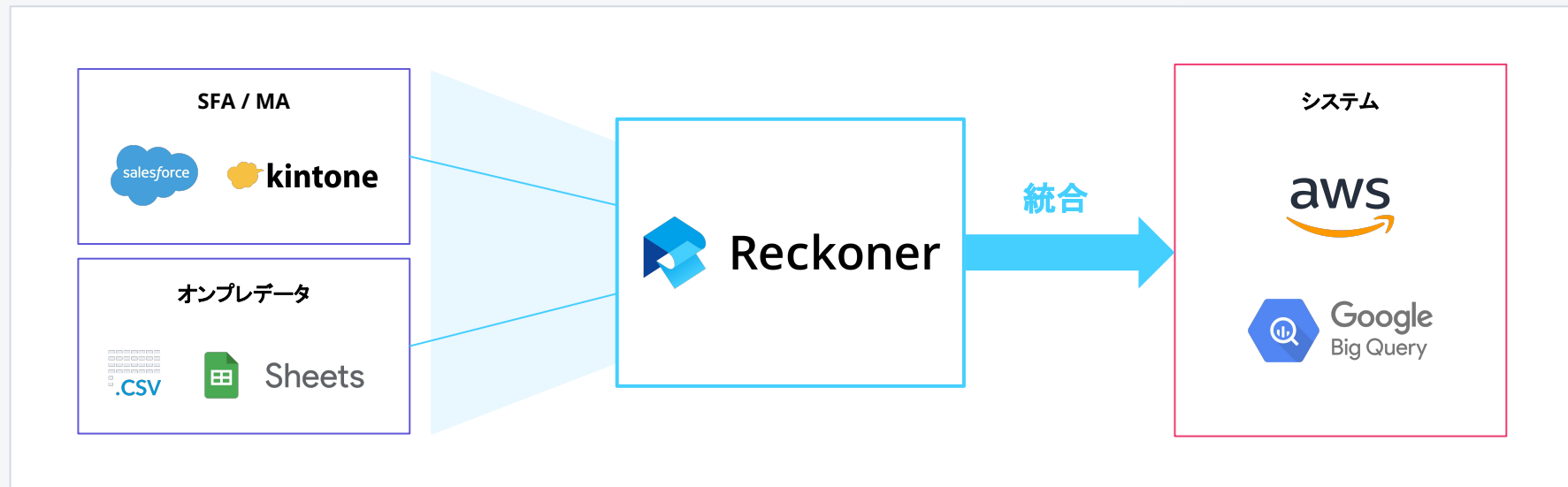
# 05

## ユースケース

Google Cloud、AWS、Azure間のデータパイプラインを構築し、  
マルチクラウドを実現可能



Sheets、EXCEL、CRM (salesforce、kintone、hubspot) と、  
システム (AWS、オンプレ) を Reckoner を使って **ひとつに統合**





BigQueryやRedshift,Snowflakeのデータ前処理基盤として利用することで  
データ分析パイプラインを作成し顧客分析、売上分析、マーケティング分析が可能に



# 06

## 導入事例

## auコマース&ライフ様

au Payマーケットのデータ連携基盤に採用



auコマース&ライフ株式会社 サービス本部サービス推進部 佐藤 様

## au コマース&ライフ

独自開発のオンプレ ETLをReckonerに移行しデータ連携エラーがゼロに。データ連携処理にかかっていた時間を約 40%削減

“開発者でなくても直感的に連携フローが作成できる手軽さに好感を持ちました。初期費用がかからない点もコストパフォーマンスが良いと感じました”

“スピード感/柔軟性重視のデータ連携に Reckonerが最適”

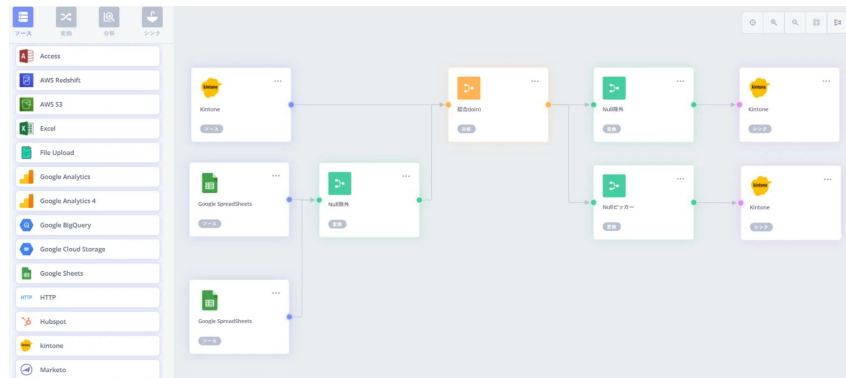
[事例の詳細を読む](#)

# 07

## お問い合わせ・資料請求

# データ連携作業工数 を大幅削減

Reckoner(レコナー)はクラウド型 ETL/データパイプラインサービスです。使いやすさを追求し、新たなデータ連携もストレスフリーで行うことが可能です



Thank you.